

市区町村の人口規模と小児医療
町村部では内科・小児科標榜医の
存在が不可欠である

広島国際大学医療経営学部

江原 朗



日本小児科学会 COI 開示

筆頭発表者名： 江原 朗

日本小児科学会の定める利益相反に関する
開示事項はありません

目的

- 地方における小児科医師の不足
- 内科・小児科を標榜する医師の存在？



- こうした医師の存在を市区町村の人口規模別に明確化

方法

- 平成22年医師歯科医師薬剤師調査、
- 平成22年国勢調査



小児科医(主標榜医、従標榜医)の存在を
市区町村の人口規模別に解析

- 平成23年社会医療診療行為別調査

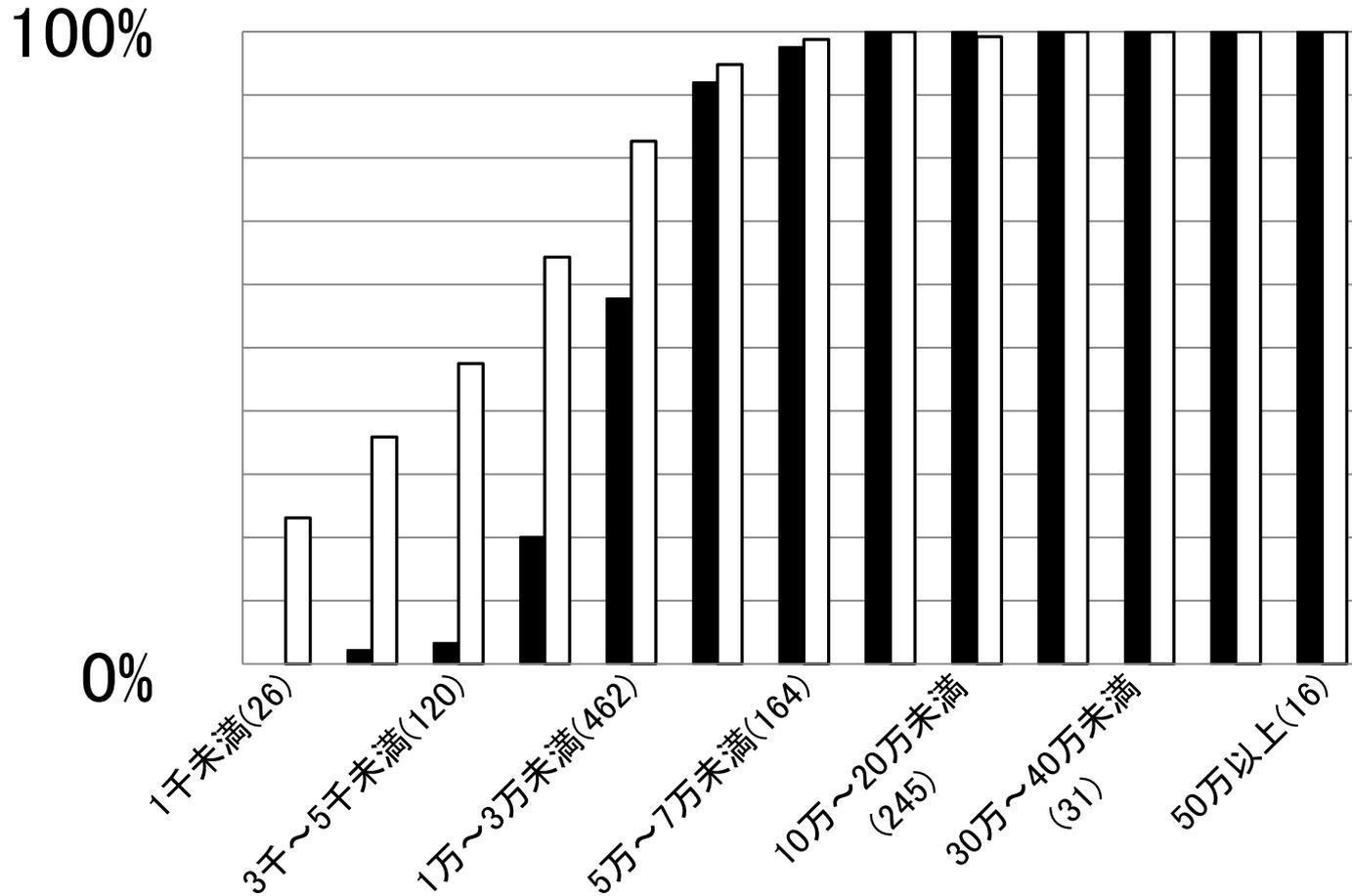


小児科主標榜医と従標榜医の
小児科外来診療料の算定回数を比較

結果

- 小児科主標榜医：
 - 人口1万以上半数以上
 - 7万以上ではすべてで存在
- 小児科従標榜医：
 - 人口1千人未満で23%
 - 5千人以上では半数以上で存在
- 小児科従標榜医：
 - 3歳未満の外来受診回数 **の25.4%**

市町村の人口規模と 小児科主(黒)、従(白)標榜医



小児科の標榜様式と3歳未満の小児科外来受診回数(平成23年6月分)

小児科の標榜様式と医療機関	小児科外来診療料算定回数	比率
主標榜医	1,486,224	74.6%
小児科診療所	1,252,684	62.9%
病院	233,540	11.7%
従標榜医		
小児科以外の診療所	506,684	25.4%
小児科標榜医合計	1,992,908	100.0%

結論

- 小規模な市区町村では従標榜医だけしかいないところも多い。
- 保険点数上も従標榜医の小児医療の提供に大きく関与。
- 医療資源の乏しい地域においては、従として小児科を標榜する医師も考慮に入れた小児医療提供体制の構築が求められる。